

## 座談会



# 音楽、図画工作・美術で育てる豊かな心

## 音楽、図工・美術に対する子どもの気持ち

学校の授業には国語、算数・数学等のほか、専門教科(以下「専科」と表記)である音楽、図画工作(以下「図工」と表記)・美術、技術・家庭、保健体育などがあります。いずれの教科も、子どもが健やかに成長するために必要なのです。今号では音楽と図工・美術にスポットをあて、去る4月28日、「音楽、図画工作・美術で育てる豊かな心」をテーマに座談会を開催し、市立第一小学校の田村主幹教諭(音楽)、神宝小学校の石川主任教諭(図画工作)、西中学校の小柳津(おやいづ)主任教諭(音楽)、南中学校の加藤副校長(美術)、市教育委員会の宍戸指導室長に話を伺いました。今号はその概要をお伝えします。

### 「先生」になった理由は何ですか

○司会 音楽、図工・美術の専科教員を選んだきっかけは何ですか。

○田村 小学校の時から音楽が大好きでしたが、教員になった直接のきっかけは、中学校での音楽の先生との出会いです。先日あった中学校の同窓会で30年くらい前の仲間が集まった時も「音楽の授業で合唱に目覚めた」という話が出たぐらいで、学校でのさまざまな出会いが大変大きいと思いました。

○加藤 小学校1年生の時に担任から「絵が上手だね」と言われ、先ずは「先生っていいな」と思うようになりま

した。美術が好きでこの道を選んだというよりは、先生との出会いのほうに先です。

○石川 私も小学校のころは図工の時間がとても楽しくて、小学校1年生の時に、「働く消防士」の写生会で金賞に選ばれ、高校時代には先生から「君の描いた絵がほしい」と言われ、大変うれしい思いをしました。画家になることも考えましたが、将来を考えて教員になりました。

○小柳津(おやいづ) 私が教員になるのを決めたのは高校生活の終わるころです。サークルの顧問から「あなたたちと関わって、学ぶことがたくさんあることに気づかせてもらって、すごくいい2年間だった」と言われ、とてもうれしかったのです。「先生」というものはすごく偉くて、生徒は先生から一方的に教わるという関係だと思っていたので、「生徒から教えてもらうことがあり」と言われ、その時にはとても衝撃を受けました。こんな考え方で互いに学べる

のはとても素敵だと思ったのがきっかけで、音楽好きだった家庭環境もあり、音楽の教員を目指しました。

○司会 楽しくて、うれしい経験をされたり、導いてくれた先生との出会いが、今の職業を選ばれた大きなきっかけなんですね。全員が共通のきっかけをお持ちということは、いかに先生との出会いが重要なのか分かりました。

○小柳津 中学1年生、2年生の子どもたちは歌うのが大好きで、音楽を聴いたらお尻が動いたり、リズムを体で刻んだりという感じで、子どもたちが楽しんで音楽室に来てくれます。

○小柳津 グローバル化している社会を生き抜く人材をつくることをモットーにしています。室長から「違いの共有」という話がありました。まさにそこを重視しています。

○石川 絵を描いたり物を作ったりすることは人間の根源的な欲求の一つなのかもしれないですが、「楽しい」だけでは図工ではない」という気持ちで、授業に臨んでいます。授業をするのと自体、自分も楽しんでやろうと努めています。

### みんなが楽しみにしています、専科の授業

○司会 教室を移動して受ける専科の授業は特別な感じがしますが、子どもたちは専科の授業をどう思っているのでしょうか。

○石川 登校時に「先生、今日の図工よろしくね!」「今度は何するの?」と声をよくかけられます。こういうことは本校だけではなく、市内のどの学校でも見られるようです。

○加藤 私は現場から5年間離れていますが、授業をしている時には子どもたち

## 子どもたちの期待に応えるために...

### 授業で心がけていることは何ですか

○司会 専科を教えるにあたって考えていること、授業づくりで重視していることは何ですか。

○宍戸 専門性を持つ皆さんですので、算数や国語とはもちろん、音楽や図工・美術に対する考え方の

田村 留美(たむら るみ) 市立第一小学校・主幹教諭  
平成22~24年度に市小中連携教育課程委員。平成26年度には「日本の旋律に親しもう! 私たちの『越天楽』をつくる」の題材で表現活動に取り組み、中学校での鑑賞「雅楽『越天楽』」へとつながる連携授業を提案。坂井恵・酒井美恵子編著『小学校音楽 魔法の5分間アクティビティ』(平成27年・明治図書出版)に実践例を掲載。「言葉でリズム」「拍の強弱をクーパー」を音楽授業導入実践例として紹介している。

違いがあると思います。その違いを、今日は共有しながら考えていきたいと思っています。

○小柳津 絵を描いたり物を作ったりすることは人間の根源的な欲求の一つなのかもしれないですが、「楽しい」だけでは図工ではない」という気持ちで、授業に臨んでいます。授業をするのと自体、自分も楽しんでやろうと努めています。

○加藤 授業では物を作ったり、使う場合がありましたが、一貫して「美しい」と感じられるものが良いだろうと考えていました。ただ役に立つというだけではなく、個人が「美しい」と感じられるものに接し、かつ、役に立つものをたくさん作らせました。

○小柳津 どの学校でも合唱コンクールには相当熱が入っています。本校では3月に行ったのですが、作曲家のねらいやメッセージを酌み取る楽曲分析をするこのことを呼びかけました。このことはかなり浸透してきていて、もう少し深く曲を

石川 功至(いしかわ こうじ) 市立神宝小学校・主任教諭 東久留米市授業改善研究会図画工作部会世話人。専科教諭として、2年生~6年生の図画工作を担当。子どもが楽しいと感じられる授業を目指して、指導の工夫を図っている。神宝小学校は、平成29・30年度に市の研究推進校の指定を受け「意欲的に取り組み、かかわり合いながら自分の考えを高める子供を育てる学校の創造」をテーマに、研究に取り組む。研究主任。

また、小学校では「自分をどう表現するか」が身に付いてくれれば良いと思っています。自分を表現するということは「体全部を使うこと」で、歌う時も楽器を演奏する時も、そうできることを最終目標にして取り組んでいます。

### さらにステップアップしてみたい!

○司会 子ども自身の意欲を引き出すことがとても大事だと分かりました。なかなか上手くなれない子どもたちが、あきらめず、意欲をもって取り組めるために工夫されているこ

＜今号の主な内容＞  
◎1~2面 特集 座談会「音楽、図画工作・美術で育てる豊かな心」  
◎3面 新しい先生、ようこそ東久留米へ! ▽総合教育会議を開催  
◎4面 シリーズ「東久留米の学校史 その5」 ▽英語の授業が大きく変わります(小学校)